



皆元気 コロナに負けない 運動会！

それいゆ 広報

Vol.127

医療法人同仁会

- 介護老人保健施設 それいゆ
TEL0577-35-3030
- 桐生クリニック
TEL0577-35-3880 FAX (共通) 0577-35-3063
- 折茂医院
TEL0577-34-5025
- それいゆ訪問看護ステーション
TEL0577-37-5260
- ヘルパーステーション それいゆ
TEL0577-37-3360
- 病児保育室プティそれいゆ
TEL0577-35-2525
- ケアプランセンター それいゆ
TEL0577-35-3770
- ショートステイ それいゆ
TEL0577-35-0710
- シャロン・ド・それいゆ
TEL0577-34-5026
- Dr. Orishige ビオメゾン
TEL0577-37-0800
- デイサービスセンター れざみ
TEL0577-37-5666
- りあん・ど・それいゆ
TEL0577-32-8166

新しい年、二〇二〇年を迎え、希望に胸を膨らませ、長く寒い冬を越し、春を待ち遠しく感じながら過ごして、新しい年度を迎えた四月。日本のみならず世界の変化に、信じられない思いでした。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界で猛威を振るい、「ステイホーム」につき緊急事態宣言により学校は休校となり、野球や相撲も今までのように楽しめなくなっていました。

それいゆでは、二月半ばから面会制限を始め、今に及んでいます。

世界や日本国内を見ても、高齢者施設では、多くの感染者、死者が出ています。高齢者は、高齢ゆえに体力の低下、免疫力の低下、多くの器官の機能低下があり、また持病を抱えておられます。非常にリスクが高いのです。

また、介護という仕事は、ある程度密着せねばなりませんので、危険なウイルスに入り込まれてはひとたまりもありません。

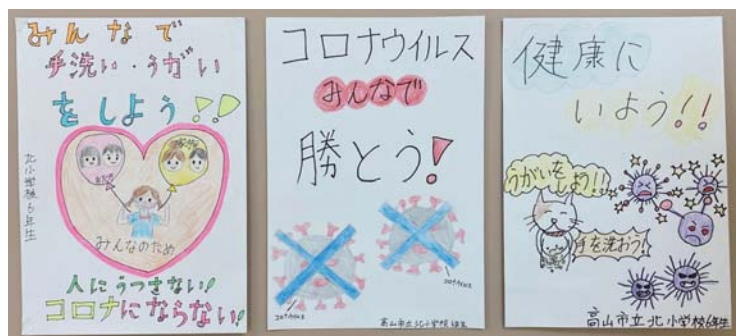
新型コロナウイルス感染症がいつまで続くかわかりませんが、マスク、消毒薬など不足がちな中、できるだけ感染防御態勢を整え、手洗いや換気に努めたいと思います。

緊急事態宣言が解かれれば、徐々に普通の生活が戻ってくると思われませんが、第二波、第三波の恐れもあり、当分は気の抜けない日が続きます。

感染防御の面から、ボランティアの慰問は当面行えず、寂しい面もありますが、お誕生会など少人数で楽しんでいただける催しなどは行っていきたいと思っています。

リハビリについても身体的なパワーリハビリのみならず、脳活性化リハビリ、学習療法など作業療法をさらに充実させていきたいと思っています。ワクチンや特効薬ができ、安心して生活できる日が一日も早く戻ってくることを願っております。

これからも、老健を取り巻く環境、ご利用者の流れなどいろいろな変化が起きてくると思いますが、より良い施設運営を行っていききたいと考えています。今年度もよろしく願いいたします。



「がんばろう日本!! 大作戦!!」北小6年生の皆さんより

新年度を迎えて

介護老人保健施設それいゆ
施設長 谷口 治

治

委員会・専門部会の取組み



レクリエーション委員会

今年度の目標は、『利用者様一人ひとりが楽しめるレクリエーション』です。

体を動かさなければ少しの運動（動くこと）も億劫になりますし、頭を使わなければ、ぼーっとしている時間が長くなり、結果として元気がなくなり、より動かず、考えないというサイクルになってしまいます。

刺激を与えるというのは、大げさかもしれませんが、利用者様がいきいきと生活するために、利用者様だけでなく、私達スタッフも利用者様と一緒に楽しめる時間を作っていきたいです。

食事委員会

食事委員会の今年度の目標は、『利用者様の状態をよく観察し、安全な食事の提供を行う』です。

利用者様の体調や食事時の状態を職員が把握し、状況に合わせた食事の対応（量や形態の調節等）ができるよう、職員一人ひとりが意識し努めていきたいと思います。

又、コロナの影響で外出や面会が制限される中、食事やおやつの時間が少しでも楽しみのある時間になる

よう、季節を感じられるイベント食や手作りおやつ等にも力を入れていきたいと思っています。

ケアプラン委員会

今年度の目標は『ケアプラン業務について、理解を深めることができる』です。毎月の委員会では、ケアプランを作成する上での業務の改善点やスタッフからの疑問を解決できるように話し合います。勉強会を開催し、テーマをもって行い、施設でのケアプラン作りに活かしていきたいと考えています。

また各フロアーの委員会メンバーが中心となり、日々のケアプランの確認、新人スタッフへの指導も行います。日々利用者様の様子を観察し、見守り、接しながらご家族様へもケアプランの説明がより良くなるよう、各スタッフが理解を深めていけるよう努めて参ります。

教育委員会

今年度の教育委員会は、『教える側も教わる側も向上できる環境を作る』を目標に一年間取り組んでいきます。

まずは、既存の新人教育マニュアルに加え、新人教育ファイル・チェック表の見直しを行います。より具体

的な指導と評価を行う為に、どのようなアプローチが必要か随時、委員会で話し合い新人指導の基盤を作り教育の発展・強化を図ります。

更に指導を通して新人スタッフ・指導スタッフだけでなく中堅スタッフの育成にも力を入れ取り組んでいきたいと考えています。

また、毎月の勉強会では各部署で講師を担当し個人のスキルアップ・全体のスキルアップを目指します。

入浴・環境・排泄委員会

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、これまで以上に感染症対策を意識して取り組む必要があります。

新しい対応方法等講じて参りますが、基本に徹することも忘れずに各々取り組んでいきます。

【入浴】 感染予防と安全な入浴介助に努める

【環境】 感染予防に徹した環境づくり
【排泄】 個々にあった排泄ケアを提供し感染予防に努める

学習療法委員会

学習療法委員会の今年度の目標は『学習中の気づきを多く記録と会話を

深める』です。

日々の学習の中で利用者様と共にコミュニケーションを通して学習療法を生活や・ケアに活かすよう取り組むことが認知症ケアやリハビリ、自立支援に繋がっていると感じています。

具体的には質を高めるための工夫をし「褒める」「認める」「共感する」に重点を置きながら進めていきたい。そうすることにより観察力の向上と気づきが増えると思う。

学習中の会話の時間を大切にしながら、おおむね、傾聴をこころがけつつ、利用者様の趣味や過去の職業や好まれたもの、ご家族の話を交ぜ会話するなど利用者様が話された内容をそのまま日報に記入することで情報の共有とコミュニケーションの幅が広げられるようにしていきたい。体調の変化や学習実施の様子も気づきとして記録に残すように、さらには利用者様の意思、思いを引き出せる会話を深めながら取り組んでいきたいと思っています。

認知症専門部会

認知症ケアで課題となるのは、徘徊や妄想などBPSD(行動、心理症状)の理解、対応であり、この症状の出現の仕方は疾患の種類によって

異なり、また周囲の環境や対応によっても改善したり悪化したりします。

このBPSDを表すのに「チャレンジング行動」という言葉を目にするようになりました。

認知症の方の理解不能な行動で周りを「困らせている」ではなく、本人が一番「困っている」状態であり、その状況を周りに訴えている行動と捉えます。

私たちは認知症の方の、その行動の意味を知り、そして理解し共感すること、その人に少しずつ近づけるのだと思います。専門職としての知識と技術の向上心を持ち、笑顔につながるケアを目指していきます。

事故防止対策委員会

『インシデントを上げる』『記録する』『コミュニケーションをとる』と全体の方向性を示し活動してきた。

事故の起き方も同じようなミスが続いており、確認するという対策が目立つような状況が続いている。

インシデントの効果をより高めるよう、基本である「こんな危険なやり方は絶対ダメ」と安全ルールの徹底を行う。また環境・業務の流れによる危険の見直し、介助技術の見直しを図る。

面会制限等により御家族とのコミュニケーションの機会が減っている。利用者様の生活が見えにくい時こそ、様子を記録に残し、説明できる状態をつくる。

○防げない事故と防ぐべき事故が存

在する。

○防げない事故は御家族へ施設の取り組みとリスクの説明を行い、理解を得る。

○過失による防ぐべき事故を防止するよう活動していく。

防災委員会

令和二年度の年間目標は、新採用の職員も多いため、昨年度に続き『**職場の防災意識を高める**』とします。

内容としては、年二回の火災訓練には消防署立会いとして、緊張感を持った中で火災時の行動手順を確認、習得する訓練としたいと思います。

毎年行う災害備蓄品の確認、緊急連絡網の整備も下半期に行う計画です。勉強会では、防災研修会に参加した職員にそのプログラムを再現してもらい、防災意識を共有し高めていきたいと考えております。

口腔ケア部会

『**アセスメントに基づく個々に合った口腔ケアができる**』を年度目標に掲げ、以下の手順にて知識・スキルの底上げに取り組み実行し、利用者様・家族様にとって安心・信頼関係の構築を目指します。

- ①口腔ケアの目的の周知
- ②アセスメントシートの活用と評価の徹底
- ③目標の設定と目標変更の実施
- ④口腔ケアに対するスタッフの意識調査の実施

リスクマネジメント委員会

当委員会は「事故対策」「衛生」「感染対策」「褥瘡予防」「拘束廃止」の五部門を組織的に統括管理しています。

年明け以降、新型コロナウイルス感染症により経済的には莫大な損失と景気後退、社会的には生活難と生命の危機に曝されています。

これまで施設では、感染対策委員会にてPDCAに添って検討・実行してきました。面会制限や行動規制など多くの制約で皆様にはたいへんご不自由をおかけしております。

これは職員・家族、ご利用者様・ご家族様、地域の皆様、そして医療介護を守るためであり、一人ひとりが厳しく対処せねばなりません。

今後の状況により規制緩和を施して参る所存ですので、もう少し耐えて頑張ってください。ご理解の程、宜しく願います。



立入制限による洗濯物の受渡し



折茂医院受付飛沫対策パネル



来館者は検温と記名等を依頼

通所リハビリテーション

介護長 白川 浩代

ご利用者様には利用時にマスクを装着していただくなどのご協力を頂き、感謝申し上げます。今後も感染対策へのご理解とご協力をお願い致します。

新年度を迎えご利用者様にどのように接していくかを話し合い、今年度の目標を『温故知新』としました。意味はご存じの通り「古きを知り新しきを知る」です。

この言葉だけ聞くと「若いころの時を知る」ように聞こえるかもしれませんが、もちろん、そこも以前より重要視しています。今は介助が必要な状態でも、みな平等に若く元気な頃がありました。その頃のお話を聞くのもスタッフの楽しみでもあり、お話しして下さるご利用者様のお顔もとても素敵なお顔をしたいと思っています。

しかし、今回の『温故知新』は少し違います。介助の必要な方、高齢者の方にとって一日一日は日々変化が見られます。極端なことを言えば、前回利用時と今日は違います。その違いに気付く事ができるのはやはり「普段を知る」事ができているからだと思っています。その普段を知るということは口で言うほど簡単なことではありません。体調の変化や病的なこと、メンタル的に弱っていることをご本人やご家族よりも早く察知し助言できればと思っています。その後の対応はご家族や主治医の方への相談となりますが、その後の手助けになればと思います。前を知った上で今のそして今後の対応をする。先を見据えた介護をスタッフ一同目指し、頼りになる通所リハビリになりたいと思います。



ケアプランセンターそれいゆ

管理者 寺田 歩美

日頃はケアプランセンター「それいゆ」の事業運営にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスが猛威を振るい、国民の生活が変容する事となりました。有効なワクチン開発まではウイルスと共存していく「新しい日常」を生きてはなりません。

生活を支える介護は『感染拡大防止』と『支援が必要な方々の保護』という両面を調整していく必要があります。

ケアマネジャーとしても通所系・入所系サービスが休業となった場合を想定し、訪問看護や訪問介護など代替サービスを検討し、十分な感染防止対策を前提としながら必要なサービス提供が行われるよう調整を行っていかねければなりません。何かしらの介助が必要な状態だからこそその要介護者であり、支援を必要としているからこそサービスを受けているのですから…。

ケアマネジャーとしても感染対策を行い、訪問時間の短縮や電話等での聞き取りへの変更など工夫をする事で、「持ち込まない・持ち出さない・拡げない」を基本にしながらも、必要のある方々への支援を続けていきます。今後は「非日常」を想定した生活状況や家族背景等の聞き取りを行いながら、在宅での必要なサービスの確保に努めていきたいと思っています。ご理解とご協力をお願い致します。



それいゆ訪問看護ステーション

主任 長瀬 由美子

日頃はそれいゆ訪問看護ステーションをご利用いただき誠に有難うございます。スタッフ一同、心よりお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で、毎日自宅で過ごすことが多くなっていると思いますが、皆様、体調はいかがですか。

これからの季節、気温上昇と共に熱中症に注意が必要です。コロナウイルス対策でマスクをすることが多い為、余計に熱中症になりやすい状態になっています。家族や介護者が日頃から全身をよく観察して些細な変化を見つけた事に至らないように気を付けましょう。

★かくれ脱水の予防チェックリスト

- 唇や舌が乾く。唾液の量が少ない
 - 便秘になった。或いは以前より悪化
 - 肌がカサつくようになった
 - 靴下のゴムの跡が十分以上残る
 - 手の甲をつまんで持ち上げた時、三秒以上跡が残る
- ※一つでも当てはまれば「かくれ脱水」の可能性があります。水分摂取は免疫力向上だけではなく、脳梗塞や心筋梗塞などの予防にもつながります。自らの健康は「水」から作っていきましょう。

今後も利用者様やご家族が、安心・安楽に在宅で過ごせるよう、スタッフ一同サービスの提供に努めてまいりますので宜しくお願い致します。

皆さん在宅で過ごされていますが
熱中症に気をつけて
お過ごし下さいね



M様 94歳ですが、ご自分で家の畑を耕して色々な野菜を作って見えます



N様 ご夫婦で仲良くきれいな花を咲かせたり野菜作りを楽しんで見えます

ヘルパーステーションそれいゆ

管理者 大洞里 奈

日頃はヘルパーステーションそれいゆをご利用いただき、誠にありがとうございます。スタッフ一同心より御礼申し上げます。

今年一月より流行している新型コロナウイルスにより、日本全域に緊急事態宣言が発令されました。特別警戒区域に入った岐阜県でしたが、五月二十五日に全面解除。五月二日からは岐阜県内に感染者は現時点では出ておりませんが、まだまだ油断はできない状況です。



全員がその危険性を忘れることなく、身の周りに潜むウイルスを常に意識しながら過ごしていく必要があります。同仁会の方針として、『うつらない・うつさない・拡めない』の意識をスタッフ全員が徹底し、皆様安心して在宅生活を送っていただけるよう、1.訪問前後の手洗い&消毒、2.検温の実施、3.マスクの着用など継続していきます。

これから梅雨を迎え暑い夏がやってきます。利用者様はじめご家族様も体調を崩されませんようどうぞご自愛ください。

今後も感謝の気持ちを持ち、笑顔をお届けできるよう訪問させていきます。何卒よろしくお願い申し上げます。



新メンバー挨拶 岩畠和恵

ヘルパーステーションに移動になり半年がたちました。多くの利用者様、ご家族様とのふれあいに、ドキドキ・ハラハラ・ワクワクの毎日です。

とても楽しい日々を過ごさせていただいています。新しい出会いに感謝しながら、これからも訪問させていただきます。ありがとうございます。

ショートステイそれいゆ

介護主任 原 絵里香

コロナ感染、他感染症対策に伴い月間目標として手洗い、うがい、換気、口腔ケアの徹底を掲げ、スタッフ一同ご利用者様の協力を得て感染対策に取り組んでいます。

ご家族様には日頃の介護からの疲れを取り休息しリフレッシュしていただき、ご利用者様にはショート利用中快適に過ごしていただくようスタッフ一同笑顔でお迎え致します。

ご家族様、ご利用者様との関わりを大切にしたい要望を聞き一人ひとりに適した自立支援を心掛け対応してまいります。

今後共、よろしくお願い致します。



病児保育室プティそれいゆ

管理者 白田 陽子

またたく間に世界中を巻き込む事態へと進展してしまつた新型コロナウイルス…。

児童と施設内の安全を確保するため、当施設では三月より受け入れ疾患に制限を設けて開設しております。

病児保育のご利用がほとんどないという状況の中、私たちは同仁会の職員のお子さんのみに限定した託児をしておりました。

連日のコロナ報道と先行きの見えない状況に気分が沈みそうなとき、子どもたちの笑顔に救われたのは私の方でした。できなくなったことよりできることを探す力や想像力、どんな状況にも対応していく力はきっと、子どもの方が柔軟です。

新型コロナウイルスの影響は長期化を見据え、「新しい生活様式」に思考を転換することが求められています。私たちも様々な変化に柔軟に対応しながらこれからの病児保育を模索する時が来ています。

プティそれいゆの今後の受け入れ基準については、新型コロナウイルスを取り巻く状況を見定めながら高山市とも協議の上設定していきます。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



プティでは感染拡大防止策に取り組んでいます

シャロン・ド・それいゆ

管理者 牧田 功

新型コロナウイルスの感染症予防にご協力を頂き厚く御礼申し上げますと共に、今後も変わらぬご支援をお願いいたします。小規模多機能の事業所として、介護度に関係なく多様性のあるサービスの提供、ご利用者さまのニーズを確認し必要な対応・サービスが的確に提供できるように職員一同、常に努めております。御気づきな点、御希望等がありましたら、いつでもご連絡下さい。

『シャロン・ド・それいゆの取り組み』

●季節感の維持
プランターですが利用者と職員で野菜を作り収穫し食べています。

●顔なじみの利用者・職員でコミュニケーション図る。

認知の利用者も車いすの利用者も皆さん一緒に過す。レクリエーション（お誕生日会、お雛祭り、お彼岸のおはぎ等）の実施。

●健康のために衛生管理、体調の確認、必要時の受診対応に努めております。

◎シャロン・ド・それいゆは自立した方からベット上での生活の方、看取りまで対応しております。
シャロン・ド・それいゆでは、見学・相談を随時受け付けております。



りあん・ど・それいゆ

介護主任・計画作成担当者 小 林 智 子

いつも、りあん・ど・それいゆをご利用頂き有難うございます。

りあんから見える乗鞍や畑など新緑の景色を眺めながら、皆さん元気に過ごしてみえます。今年は自粛が続いており外出等気分転換ができないので、室内の活動で笑顔になってもらおうと職員一同頑張っています。その中でもレクは日替わりで職員が担当し、個々の持ち味を活かす職員としての見せ場であり、利用者様の満足度が強く感じられる場です。

職員間では、ご本人やご家族との関わりの中でどんな些細な情報でも知り得たことや気づき等を皆で話し合い、より良い暮らしのお手伝いができるよう努めています。

一人ひとりの思いや生活スタイルに合わせた支援や時間の過ごし方を大切に、持っている力を活かしながら、安心できる居場所となり、皆様の頼れる存在となれるよう、通い・泊り・訪問を使って柔軟に支えられるサービス提供に努めていきたいと思っています。



Dr. Oishi Higashino

主任 砂田孝子

初夏を思わせる今日この頃、皆様には新型コロナウイルスウィルス感染拡大のため、生活環境に大きな変化が生じ、気も滅入りがちとは思いますが、もう一息だと信じ、過ぎて頂きたいと思います。

さて、ビオメゾンでは、新年度の取り組みの一貫で「新型コロナウイルス感染予防対策」を重点に掲げ、感染予防委員会のメンバーを中心に話し合いを行った結果、「手洗い・うがい・アルコール消毒の徹底」が重要ということが再認識されました。スタッフ一同に再周知を行い、感染予防に日々取り組んでおります。又、施設内感染を防止するため、面会を禁止していることから、寂しい思いをされている入居の方には、短時間ではありますが、御家族の皆様とガラス越しでの面会を実施し、大変喜ばれました。まだ終息とはなりません、入居されている皆様に、毎日穏やかに過ごしていただける様、スタッフ一同感染予防対策を徹底し、元気に、笑顔で、乗り切りたいと思っております。



デイサービスセンターれざみ

管理者 八賀 薫

今年度は新型コロナウイルスが利用者様の生活にも影を落とし、不自由な日常を過ごしておられます。そんな中でも元気に来て下さる利用者様、送り出して下さる家族様から「大丈夫？」「あんな達者も大変やけど頑張ってるな」など、温かい言葉で励まして頂く毎日です。

私達職員は、少しでもデイれざみが癒しの空間となるよう、職員それぞれが利用者様の為に出来る事を見つめました。

【八賀】利用者様にとつての安心、安全を作り出すのは私達であるとの意識を持ち、その上で居心地の良いデイれざみとなるよう、利用者様への気配り目配りと共に、職員にとつても働きやすい職場となるよう努めます。

【坂本】その方が何を目的とし、何に介助が必要なのかを考えた在宅生活が続けられるよう取り組みます。また利用者様や職員に対しても気持ちの良いついて対応で雰囲気作りを大切にします。

【古田】利用者様に寄り添い傾聴し、「コミュニケーション」を大事に謙虚に何事にも頑張ります。

【池之俣】元気の挨拶から始まり、利用者様の笑顔や笑い声がたくさん引き出せるように頑張ります。

【藤田】利用者様が楽しく、意欲的に機能訓練に取り組まれるよう努めます。

【長瀬】利用者様本人が何をしたいか、何が嫌なのか、一人ひとりに合わせた介助が出来るようにします。

【長澤】利用者様にも送迎においても先を見越し「もしかして」と予測出来る仕事をする。

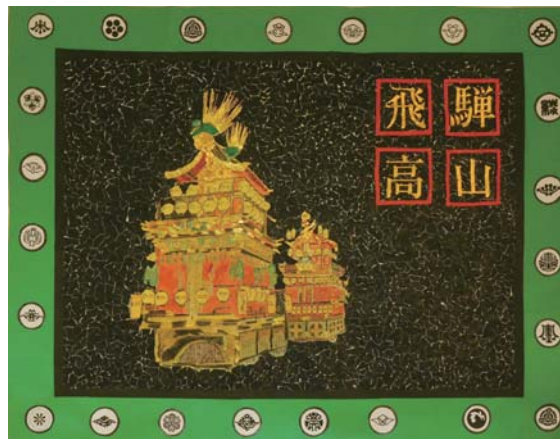
【中山】利用者様、家族様の気持ちに寄り添い、楽しい一日を過ごして頂けるように知識や技術の向上に努め、レベルアップを目指します。

【大矢】利用者様が安心して楽しく過ごして頂けるよう、体調面の急変など早急に気付ける事を心掛けます。

【田中】運転手として無事故は当然の事、利用者様が一日を楽しく過ごせるように明るい笑顔と挨拶でお迎えし、安全に送迎する事を目標にします。

【牧下】まずは健康に気を付け、送迎車の運転に充分気を付け、安全に貢献します。

職員全員で力を合わせ、地域の皆様を選んで頂ける施設となるよう努力致します。





スタッフ大募集

Dr.が
24時間対応
だから夜勤も
安心です

パート希望の
方は
ご相談下さい

産・育休等、
安心の
福利厚生

子育て中でも
職場のスタッフの
フォローしますので
仕事がしやすい
環境です

20～70才代まで
幅広い年代が在職し
家族のような
雰囲気です

《募集求人》

- ① 事務職 (介護老人保健施設)
- ② 理学療法士 (介護老人保健施設・訪問看護ステーション)
- ③ 看護職 (通所リハビリテーション・デイサービス)
- ④ 介護職 (小規模多機能・有料老人ホーム・ショートステイ)

- 資格／18歳以上 (介護職は資格不問)
- 時間／シフト制 (応相談)
- 給与／当法人の規定による
- 休日／1ヵ月単位の変形労働時間制、年間休日105日
- 社会保険完備、各種手当有り、福利厚生有り



最近、免疫力アップに繋がるかな？と夜間ウォーキングを始めました。意外と歩いたり、ジョギングされる方を多く見かけます。自分を含め、気持ちを集めているせいかな他の方とすれ違う時は皆、無言です。昨日もいつものコースを歩き終えて近所まで来た時に五歳の男の子と下の子を抱っこして歩く若いお父さんの親子連れと出会いました。いきなり「こんにちはー」と男の子に声を掛けられて、思わず私も「こんにちはー」と返していました。お父さんは苦笑いして、遠ざかる親子の影の方から「何で笑うの」と子どもが響き、素直な子どもの気持ちにとてもほっこりしました。「コナを機会に変化に対応する素直な気持ちを大切にしようと思いました。皆様、ご自愛下さい。」

編集後記

各地から梅雨入りの便りが届いてきました。例年なら「蒸し暑い季節になつて困るよね。熱中症も心配…」など時節柄の挨拶だけで過ごす日常が一変し、新型コロナウイルスの蔓延にも注意する、という配慮も必要です。いまだに学校を駆け回る子ども達の姿を待ちわびるグラウンドの広さだけが目に留ります。太古の昔から変異するウイルスと共存してきた人類の歴史ですが、感染防御の生活様式が推奨され、社会生活にも大きな変化(スタイルの変化、意識の変化)が求められています。